

# お手がるチョコ レシピ集

KanariHikokuma



## バレンタイン・チョコ陰謀時代

---

栄枯盛衰、生者必滅。バレンタイン・チョコ陰謀時代もついに過ぎ去ろうとしている、とある年の2月14日。美咲ばあさんは一人。デパートの地下に降りるとデンマーク王室御用達のチョコレートをひと箱、買うとモノレールに乗って、※※※※墓地へと向かった。

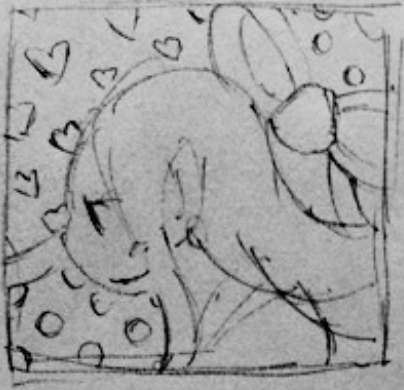
「はい、おじいさん、チョコをどうぞ。義理ですけど」



## お手軽チョコレシピ集

---

クラスメイトのB君から本をもらった。「お手軽チョコレシピ集」という本だった。私はチョコケーキを焼いた。ケーキを箱に入れ、可愛いラッピングもして。A君に贈った。グッジョブ、B君。ありがとう。



## バレンタイン・ダンス

---

もし間違ってチョコをもらったら。部屋の真ん中に置いて、ぼくは踊るだろう。ホー、ホー、と叫びつつ。また微笑んでくれた春の女神に感謝するだろう。そのあとは恭しく神棚にあげ一年間、保存する。我に新しき春を告げる板チョコを。プリーズ。



## ミニバラ

---

チョコと一緒にミニバラもらった。窓枠の所に置かれた花は可憐だ。彼女は言った。「枯らしたら、承知しないからね」……切り花の方が良かったかも。





## 二人分のホットチョコ

---

ちょー鈍感な彼をコーヒーショップに誘い、二人分のホットチョコを注文した。エヘヘ、と笑ったら。「いったいなに？」と彼も微笑んだ。……なに、このバカっぷる、という視線を感じるのは気のせいかな。なんにしても私は気にしない。



## もう憧れない

---

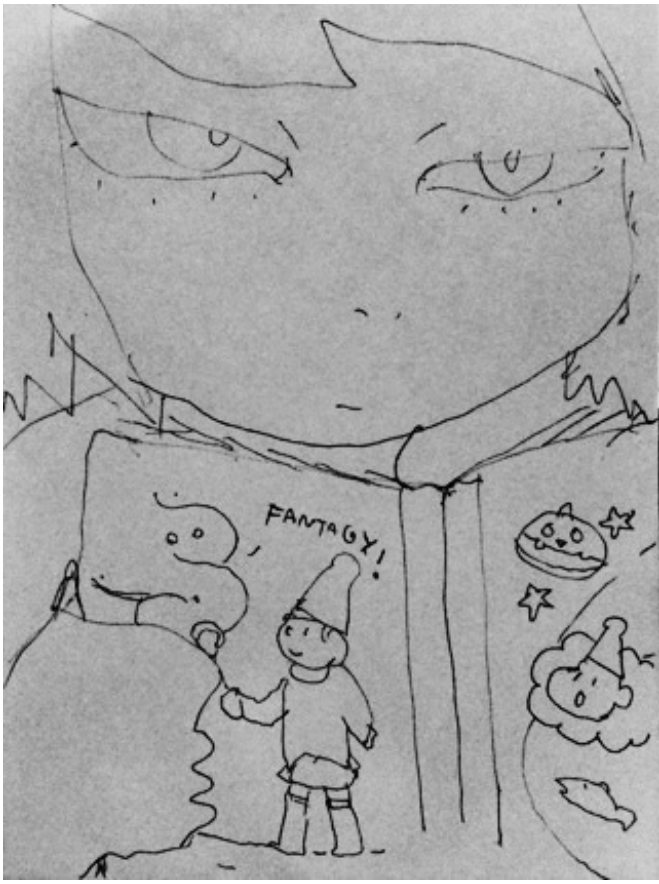
夕暮れ。空に高くのびてゆく飛行機雲を見た。南の青空を背に銀色に輝く翼。でももうぼくは憧れない。異国の街も海も。となりには春めいた君がいて。握りしめた手があるからね。.....チョコレートありがとう。



2月15日の朝

---

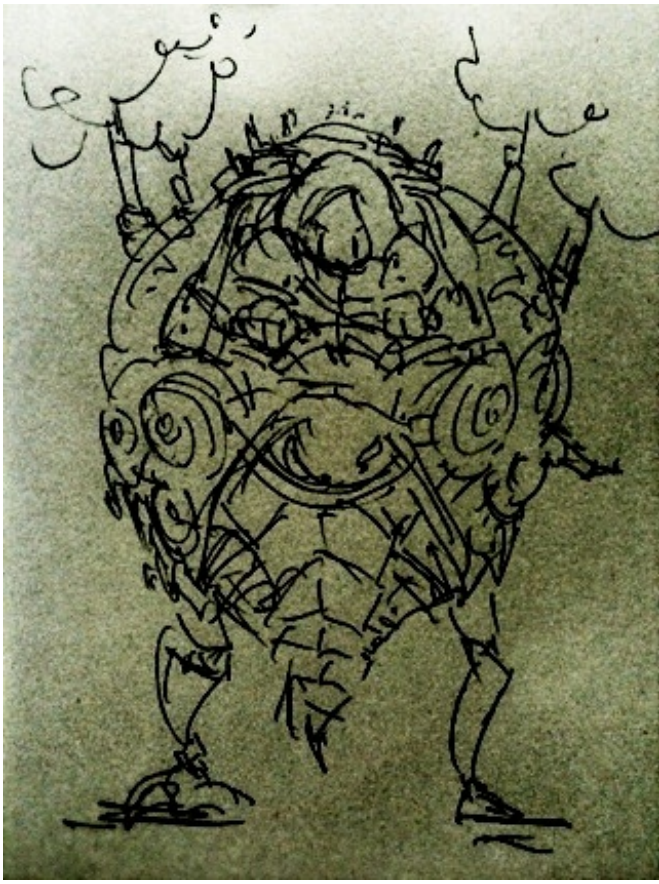
朝のコーヒー屋で。泡立つミルクコーヒーを飲む二人を見た。二人の体は有意に近い。ふと視線があって微笑む、二人。ぼくは新聞に目を落とす。殺伐とした世界が広がっている。うれしいね。ぼくはブラック党だよ。



## だんごむし

---

勇気を出して私がチョコ贈った時のことだ。いきなり彼はしゃがみこんだのだ。うずくまった彼は身を硬くした小動物のよう。...大丈夫?...と声をかけたら、そのままゴロゴロと転がっていった。凄いショック。三日ほど寝込んでしまった。





## 秘密のなまえ

---

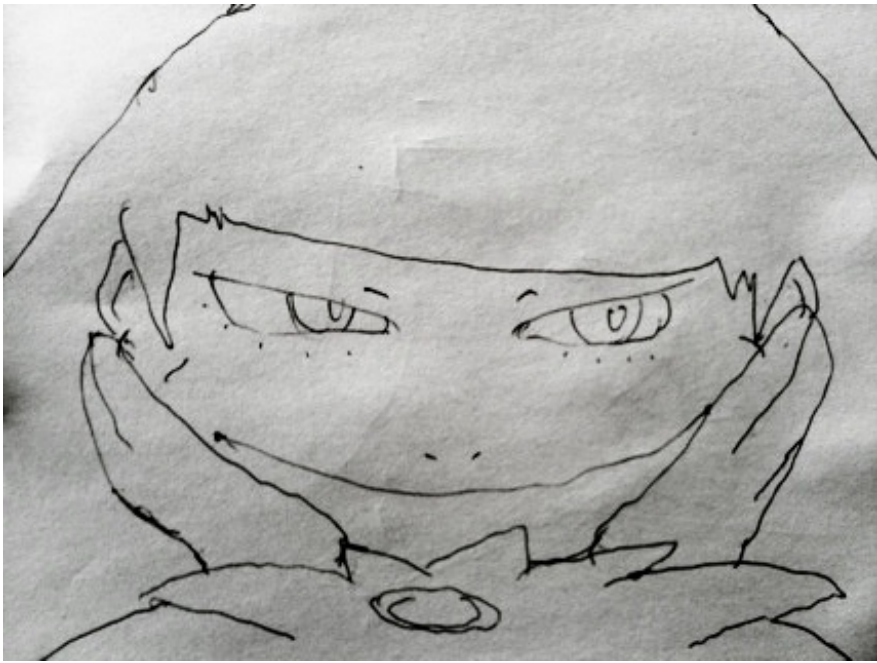
彼は言った。「ねえ。ぼくらは恋人。だろ？ならマイ・バレンタイン。秘密の名で呼びあっても良いと思うのだ。キティーちゃんとか。雪兎ちゃんとか。莓ちゃんとか」—彼女は考えた。考えて答えた。「では。2月の最終魔王って呼んで」



## 姉のバカ笑い

---

「だから男から贈っても別にいいのよ、だってバレンタインなんだから。君も男なら自ら道を拓きたまえ」と言われたのだった。姉に。そうかもしれない、とも思いぼくはクラスの女の子に贈った。チョコを。結果は微妙。人気者にはなったけど、ぼくはかなり落ち込んだ。姉の大笑いがムカつく。



## 八百チョコ

---

彼女からチョコをもらった。こちらから先手をうって商品券を渡し「これをお願いします！」って頼んだのだ。彼女は約束を守った。「はい、八百チョコ」と手渡された。八百長チョコで八百チョコか。こいつはうまいや！とつつ食べた。



## ドアを開けたら

---

ドアを開けると彼女が立っていた。褐色メイクをきめ、フラの衣装でウクレレを手にしている。ニッコリ笑うと彼女は歌いだした。「♪わたしはねー、チョコレートー、甘くておいしいーのー♪」ぼくはがっくり膝をつき、うなだれた。なんか負けた気がする。





## シャイな子

---

真澄はシャイな子だ。好きな子がいても10mの遠くから眺めるだけ。私は親友として真澄を応援してあげる事にした。手をひっぱってチョコも買って来た。後は手渡すだけだ。無理矢理、背中を押した。そうしたら。真澄は彼めがけてチョコを投げた。直球だ。10m向こうで彼が倒れた。



## 2月の手袋

---

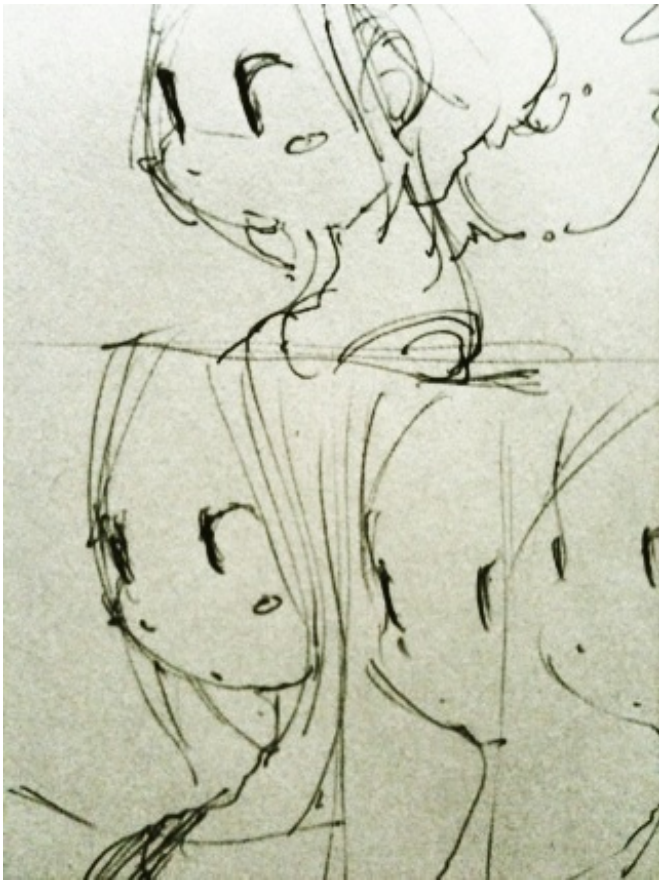
チョコを買いに行った日。片方の手袋を落とした。落としたのは右で、ポケットに残ったのは左だった。数日後、左の手袋も消えた。きっと、自らの半身を求め旅に出たのだろう。



## 深い意味はないぞ

---

吹雪の中で倒れた。もう駄目だと思ったが。暖炉の前で目を覚ました。老婆がいて鍋をかき回していた。僕が目覚めた事に気づくと。その液体をコップに入れて持ってきた。ホットチョコだった。老婆は僕に手渡す前にカレンダーを見て、ちょっと考え言った。「深い意味はないぞ」...「分かってます！



## 三つの性

---

ともかく。この惑星で恋愛を成立させたいなら。三つの性を揃えなきゃだ。胸のふくらんだ二本脚と、脚の間がふくらんだ二本脚と、背中に翼のはえた空にぷかぷか浮かんでいるヤツ。



## あとがき

---

この本は2011年。2月12日から13日にかけて集中的に編まれた。元になったテキストは主に今年、ツイッターでつぶやかれたものだけ。去年に書いたものも混ざっている。表紙絵と挿絵は、あるえ (aruerula) 様の手による。筆者の度重なる我がままに対して、「まっ、いいんじゃない？」と快く答えて下さったあるえ様には改めて感謝を申し上げます。バレンタインデーに完成してうれしい。

2011年、2月14日。 かなりひこくま

